

令和5年度自己評価計画

石川県立金沢泉丘高等学校(通信制課程)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度	判定基準	備考
1 生徒への学習支援を積極的に行い、家庭の理解と協力を得ながら報告課題の提出状況や出席日数の改善を図り、単位の修得率を上げる。その際、ホームページ等の改善や有効活用により情報発信の充実を図る。	①生徒が報告課題を計画的に提出できるよう、「年間計画表」の積極的な活用をすすめる。教職員は「学習進捗表」を定期的に郵送することに併せて、学校配信メールやオンライン学習システムで「教務のお知らせ」を発信する。	教務課 教科会 学年会	令和4年度当初は、報告課題を提出し80%の生徒が前期試験を受験している。しかし後期試験の受験率は68%である。	【成果指標】 第1期締切までに報告課題を提出した生徒が継続的に学習をすすめ、定期試験を受験している。	第1期締切までに報告課題を提出した生徒のうち、定期試験を受験した生徒の割合が A 75%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C以下の場合は手だてを検討する。	
	②教職員が報告課題の作成に困難を感じている生徒に向けて、平日に質問を受けられる体制をつくる。また、メールやオンライン学習システムや電話を含めいろいろな形で質問に答える。	教務課 教科会 学年会	令和3年度と令和4年度を比較すると、質問者数と質問時間のいずれも減少している。ただ比例して報告課題の提出率が下がっているわけではない。スクーリングでの理解がアップしているとも考えられる。	【成果指標】 生徒が、メール、FAX、電話やオンライン学習システムで、教科や科目の質問をしている。	メール、FAX、電話やオンライン学習システムで教科や科目の質問をしたのべ生徒数が A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満	C以下の場合は手だてを検討する。	
2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚、自他の生命を尊重する態度の育成を図るため、時間厳守や適切な言葉遣いの励行、法や決まりの意義の理解と遵守など、学校内外を含めた生活活動を見直し、改善を図らせる。	① 登校指導におけるあいさつ活動やショートホームルーム等の、生徒と関わる場での声かけを通して、相手を尊重する態度の育成を図る。	生徒・図書課 学年会 担任	他者との関わりやコミュニケーションをとることを苦手とするため、あいさつや返事することに抵抗を感じている生徒もいる。「生活規律を守っている」という質問に自分も周りも95%以上が守っていると答えている。	【成果指標】 生徒が自己の生活規律を意識して学校生活を送っている。	「自分は生活規律を守っている」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	C以下の場合は取組体制を検討する。	
	②いじめは絶対に許されない行為であることを、ショートホームルーム等で啓発したり、生活体験発表の機会を活かして周知したりするなど、生徒の「他者への思いやりの心」の育成を図り、よりよい学校づくりに努める。	生徒・図書課 学年会 担任	生徒アンケートでは「学校生活は全般的に楽しい」が75%、「自分は生活規律を守っている」が約96%、「本校の生徒指導は適切に行われている」が約96%と肯定的な回答をしており、概ね安心して学校生活を送れている。	【成果指標】 生徒が生活規律を守っており、学校生活を楽しんでいる。	「学校生活は楽しい」という質問と「自分は生活規律を守っている」という質問の両方に肯定的回答をした生徒の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	C以下の場合は取組体制を検討する。	
	③教職員が「ほけんだより」やショートホームルーム、学校配信メールで身体計測、各種検診の受診を呼びかける。	保健課・ 相談室 学年会 担任	新型コロナウイルス感染症の影響が考えられるが、昨年度の受診率は身体計測71%、内科検診47%、歯科検診50%であった。	【成果指標】 生徒が各種検診を受診している。	生徒の各種検診の受診率が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満	C以下の場合は取組体制を検討する。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度	判定基準	備考
3 生徒一人一人の生活状況を把握し、教職員間で共有することにより、組織的に支援する体制をつくる。	①保護者懇談会を6月と10月に実施し、生徒に関する認識を共有し、効果的な生徒支援を行えるようにする。生徒との面談時間を十分に確保するためにスクーリング日の他、平日に実施する。また教職員は学校配信メールなどにおいて随時情報を発信し、保護者に学校運営に関しての協力を求める。	総務課 学年会 担 任	不登校などの多様な悩みを持つ生徒について、保護者が一人で抱え込んでいる状況がある。教職員が生徒と接する時間も限られており、生徒達の生活状況をしっかりと把握することは難しい。	【努力指標】 保護者が担任と年度内に1回以上懇談している。	年度内に担任が1回以上懇談した保護者の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C以下の場合は手だてを検討する。	
	②教職員が生徒理解を深めるため、6月と10月に個別の面談を実施する。面談時間を十分に確保するためにスクーリング日の他、平日に実施する。	総務課 学年会 担 任	限られた登校日では、新入生・転入生・編入生ともに、体調や学習・就労状況、進路希望や、いじめ等に関する情報を正確に知ることは難しい。	【努力指標】 教職員が活躍生と年度内に1回以上面談している。	活躍生と1回以上面談できた割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C以下の場合は手だてを検討する。	
4 各種業務の平準化と効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスを実現する。	①教職員が各課内での業務の平準化と協力しあえる職場環境を整え、職員のワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。	教 頭 各 課 各 学 年	教職員には面接指導、報告課題の添削や生徒・保護者の個別面談、各課の業務がある。報告課題締切直前において添削業務が集中している。定時退校はおおむね行われた。	【努力指標】 県が目標とする年次休暇12日を教職員全員が取得できている。	年次休暇を12日以上取得したという教員が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C以下の場合は手だてを検討する。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度	判定基準	備考
5 卒業後の生き方を考えさせ、生徒の能力・適性を踏まえた進路指導やキャリア教育を行い、就業率や進学率を高める。	①卒業後の進路目標を確立するために、進路説明会およびロングホームルームで就職や進学についての流れを説明し、生徒が自分の適性・能力を活かし、卒業後の進路決定ができるよう指導する。	進路課 学年団 担任	自らの適正・能力にあった職業意識を持つ生徒が少ない。6月に全生徒対象に進路説明会を計画し、進路意識、職業意識の育成を図った。	【満足度指標】 就職、進学までに必要なことや手順を理解し、卒業後の進路の方向性を持つことができるようにする。	アンケートでLHでの進路説明が自分の進路を考えるのに役立ったと答えた生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合は手だてを検討する。	
	②生徒が自分の適性を知り、将来就きたい仕事について理解を深められるように、教職員が就労の意義、職業、資格について指導する。学年団、進路、教務、総務課が資料や情報を生徒に与え、総合的な探究の時間などを活用して進路指導を行う。	総務課 進路課 教務課 卒業学年	高等学校卒業の資格が当面の目標であって、進路が未定のまま卒業する生徒が多い。進路希望者の中には受験せず浪人を決断する生徒も見られる。近年は特別活動や総合的な探究の時間における就労することへの意識付けが実を結び、この状況が少しずつ改善されてきているが、まだ十分とはいえない。	【成果指標】 生徒は卒業時に進路が決定している。	卒業時に進路が決定している生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C以下の場合は手だてを検討する。	